

## 令和6年度国立赤城青少年交流の家教育事業

### 「あかぎ無限大キャンプ（事後キャンプ）」

#### 1. 趣旨

参加者にキャンプをやり遂げたという達成感を味わわせるとともに、自身の変化や成長を見つめる機会とする。

#### 2. 事業の概要

##### (1) 期日

令和6年9月14日（土）～9月15日（日）【1泊2日】

##### (2) 参加者 22名

5年生男子（7名） 6年生男子（4名）

5年生女子（6名） 6年生女子（5名）

#### 3. 企画運営のポイント

(1) キャンプを通して使用したふりかえりシートをもとに取組発表を行うことで、本キャンプ後の自身の成長や変化について参加者が把握できるよう配慮した。

(2) 既習のキャンプ技能を発揮する場として野外炊事を設定することにより、自身の成長を実感できるよう企画した。

#### 4. 日程

	午前	午後	夜
9月14日 (土)	開会式 本キャンプのふりかえり	チームミーティング 選択レクリエーション 眼の検査	野外炊事 たき火 ふりかえり
9月15日 (日)	朝のつどい アドベンチャーラリー 取組発表準備	ふりかえり アンケート 取組発表 閉会式	

#### 5. 主な活動内容



「本キャンプのふりかえり」



「選択レクリエーション」



「野外炊事」



「たき火」



「アドベンチャーラリー」



「取組発表」

## 6. 成果と課題

### (1) 参加者アンケート結果

満足 : 21人 (95.5%)      やや満足 : 1人 (4.5%)  
やや不満 : 0人 (0%)      不満 : 0人 (0%)

### (2) 参加者の声

- ・たくさんのことにチャレンジすることができた。
- ・色々な人と触れ合うことができて楽しかった。
- ・楽しいプログラムばかりだった。
- ・徐々にみんなと話ができて嬉しかった。
- ・みんなと協力して美味しいカレーを作ることができた。
- ・アドベンチャーラリーでは、まるで冒険をしているみたいで楽しかった
- ・取組発表は、緊張したけどしっかりと発表できた。

### (3) 成果

- ・キャンプを通して共通のふりかえりシートを使用し、記入してきたことで、参加者が自身の成長を見つめる機会となった。
- ・取組発表を行うことで、本キャンプの決意表明後、学校生活や家庭生活でどのようなことをがんばっているか、自身をふりかえる機会となった。
- ・本キャンプで実施できなかったプログラムを実施することができ、参加者の満足度も高かった。
- ・野外炊事では、参加者からも「みんなと協力して美味しいカレーを作ることができた。」「かまどの火の調節を上手にすることができた。」など、既習の技能を生かして調理することができたという感想が多いことから、身に付けた技能を発揮する場として効果的だった。

### (4) 課題

- ・事後キャンプの趣旨へさらに迫れるように、参加者自身が成長を感じるとともに、キャンプをやり遂げたと実感できるようなプログラムの工夫が必要である。

担当：企画指導専門職      平澤 輝樹